

2004オープンキャンパス

花野井 歳弘
Toshihiro HANANOI

九州産業大学 情報科学部 知能情報学科
Department of Information Science, Kyusyu Sangyou University
hananoi@is.kyusan-u.ac.jp, <http://www.is.kyusan-u.ac.jp/~hananoi/>

1. はじめに

九州産業大学 2004オープンキャンパスは、第1回8月1日(日)、第2回10月24日(日)に開催され、情報科学部も積極的に参加した。

通常は4年次生および大学院生によるゼミナール毎の研究室紹介が主として行われるのが通例であろう。しかし、情報科学部では年次進行中のため、ゼミナール生が各研究室にはおらず、12号館5,6Fの研究室では展示等の準備ができないのが実情である。

このことから、独自の企画運営方針により開催し、オープンキャンパスの目的を果たした。

本稿では、情報科学部が開催した2004オープンキャンパスの内容について報告する。

2. 開催の方針

基本方針

“高校生には夢と希望を”

“父兄には安心を”

この2つをモットーに、来て楽しめ、かつ情報科学部への入学に期待と希望を持って帰宅するような内容とする。

体制

教員主体の模擬講義・模擬実験などに加え、あらたな試みを実施した。在学生から希望者を募り、メディア・広報研究会を新たに設立。このメンバの自主性を尊重し、イベントの発案、会場の準備運営などに当たる。なお、教員はメンバからの協力依頼に応じ支援する。

開催場所

各研究室ではなく、12号館1階のロビーを中心とし、多くのイベントを開催する。これにより、イベント参加者を増やす。

3. 開催状況

メディア・広報研究会参加希望学生は、予想以上に多く活気あふれる体制が取れ、また、若い新鮮な感覚の展示、イベントを多く開催できた。各体験イベントには来場学生が多く参加した。

		第1回 8/1(日)	第2回 10/24(日)
来場学生・父兄	(人数)	100名	62名
	(延べ人数)	589名	240名
運営参加学生 (メディア・広報研究会)		28名	24名

注：延べ人数は、各イベントを体験した人数

4. 開催内容の紹介

以下に開催の内容を紹介する。

4.1 模擬講義

第1回：情報通信技術を用いた安全運転管理教育システム(ASSIST) CAD演習室にて 合志助教授
実験車両実演

ASSIST講義およびDELPHI演習をCAD演習室にて行った。また、講義に引き続き館外で実験車両の実演につながったなど興味を引かれ多数の参加者が詰め掛けた。

第2回：コンピュータに問題を解かせて見よう 12107教室にて 米元助教授 パズルに挑戦

楽しいパズルの講義が行われた。

4.2 模擬実験

第1回、第2回：じゃんけん判定回路の製作実験 学生実験室にて 澤田助教授

本学部の特徴、ハードウェア製作実験を体験する。高校生には初めての体験であったが、周到的な準備と親切的な指導により全員じゃんけん判定回路が完成できた。

4.3 1階ロビーにて

12号館1階ロビーにて、相談コーナー、展示、体験イベントなどが集中して行ったので、参加者にも見やすい構成であった。

総合案内/個別進学相談 有田教授、一ノ瀬教授

学部の内容、進路など真剣な質問にたいしていねいに指導が行われた。



図 1 模擬講義風景



図 4 にぎわう体験イベント会場



図 2 実験車両実演



図 5 進学相談コーナー



図 3 模擬実験 回路製作風景



図 6 研究展

研究展

全教員の研究内容をパネルで展示情報科学部の研究レベルの高さを示した。

特徴講義体験

本学部の特徴講義の1つである教育用計算機 KERNEL を体験する。

インターネット中継体験

大型画面に模擬講義、模擬実験およびイベント風景を中継し、画面の鮮明さなどを体験。

バーチャルリアリティ体験

バーチャルリアリティは徹夜を繰り返して製作された。高校生に高い人気を獲得。

足型測定器体験

松永先生の足型測定器は、測定結果のおみやげつき。インターネットやりほうだい体験



図 7 若い感覚の展示も

4・4 呼び込み隊の活躍

他学部になく大活躍をしたのが、研究会の学生の発案で結成された呼び込み隊。オープンキャンパスの開催中、学内を拡声器を持って走り回り、情報科学部等へ誘うなどオープンキャンパス成功に大きく貢献。



図 8 KERNEL 体験コーナー



図 11 パーチャルリアリティ



図 9 インターネット中継



図 12 足型測定器体験



図 10 体験イベント 中継カメラマン



図 13 インターネットやりほうだいコーナー

5. 反省と2005年度の方針

多数の在校生有志により、若く新鮮なアイデアのイベントが実施できた。これは他学部にも影響を与え、第2回にはその影響による変化が見えたほどであった。しかしながら、第2回にも第1回とほぼ同様の内容を踏襲したため、来場者が減少する結果となったことを反省する。2005年度では、4年次のゼミナール生も揃うため、ゼミナール主体の運営・展示にするとともに、本年度よりさらに魅力あるオープンキャンパスにしたいと考える。



図 14 呼び込み隊の雄姿